

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2673000192		
法人名	特定非営利活動法人エイチアンドイーグループ		
事業所名	グループホーム あぐら		
所在地	京都府長岡京市東和苑 1-4		
自己評価作成日	令和4年7月29日	評価結果市町村受理日	令和4年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和4年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭的な雰囲気的大事にし、職員と利用者が家族のような関係を構築できるようにしている。</li> <li>・低所得者及び生活保護受給世帯でも利用可能な料金設定を維持し、開設当初より変更していない。</li> <li>・申し込み順ではなく、その方の利用に際しての理由、緊急性その他諸事情を勘案して対応している。</li> </ul>
--

JR長岡京駅から東に徒歩10分の住宅街に定員9名の当事業所があります。平成15年の設立から19年を経て、全体の介護度は3.9と、重度化の一途を辿っていますが、できるだけ住み慣れた場所で過ごして頂くという事業所の思いがあり、今に至っています。近年はコロナ禍が追い打ちをかけ、今まで出来ていた様々な活動や行事に制約がかかり、消毒や掃除の手間も倍加し、今まで以上の厳しい事業運営を迫られています。そんな中でも、2名の調理師免許を持つ職員が主となって、栄養面や好みを考慮し、できる利用者には、食材を切ったり皮むき等してもらい、食の楽しみを大切にされています。月1度はイタリアンやフレンチ、寿司等を取り寄せ、誕生日にはケーキやローストビーフ等の特別メニューを提供しています。また、読書やDVD視聴など、本人の思いに沿った個別対応を心掛け、地域の理髪店を利用したいという男性利用者の散髪にも付き添い、一人一人の満足度を高める工夫をされています。入居前からの主治医の訪問診療や看護師による定期訪問もあり、職員からは、希望をしっかりと聞いてくれて働きやすいという声が寄せられ、利用者にも職員にも居心地よい事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員会議等で折に触れ共有するようにしている。また、新しいスタッフには口頭で少しずつ周知するようにしている。	『「平安」と「やすらぎ」そして「あなたらしさ」と共に』の理念は事業所設立後に制定し、パンフレットに掲載して家族への周知も図っている。設立当初からの職員や10年勤続の職員とともに、変更の必要はないとの口頭確認をして、日々の実践に理念を反映させるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・最近になり一定認知されつつある。	以前はボランティアの来所や地域行事への参加等いろいろな活動をしていたが、コロナ禍や利用者の重度化により現在はおこなえていない。町内会に入り回覧板から地域情報を得ている。近くの小学校と連携しての新聞のリサイクル活動や、地域の循環バスのターミナル候補地として名乗りを上げる等したが、実現はしていない。近所からもらった猫は事業所内で可愛がられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議等を通じて発信するようにしているが、まだ取り組み度合いは低い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議に参加された方には担当者より細かい説明をし、そうでない方々には結果を郵送し質疑応答を受けるようにしている。	運営推進会議には民生委員や地域包括支援センター職員が参加し、メンバーに猫アレルギーの方がおられるので、地域の自治会館を借りて開催している。家族には会議前に案内状を出しているが、意見や参加はない。会議では、事業所の近況や問題点等を話合っている。緊急時に家族と連絡が取れず困るケースや、防災等の話題があがっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市町村の担当と顔を合わせることはよくあり、電話やメールなどで指導を受けている。	事故報告や1月のコロナウイルス感染者発生時も、日々、市の高齢介護課や保健所と連携して対処した。生活保護受給者の入所を受け入れているので、空き状況の問い合わせ等がある。乙訓地域包括ケアシステム推進交流会主催のWEB会議や、長岡京市おでかけあんしん見守り隊事業でも行政と連携している。	

京都府 グループホーム あぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束ケアの重要性についてはOJTなどで周知している。現在身体拘束を行っている利用者はいない。	「身体拘束及び虐待防止における指針」に基づき、職員研修をおこなっている。帰宅願望が強く、外に出て行きたがる方に関しては、2時間ぐらい周辺を一緒に歩くときもある。事業所がログハウス風の造りなので2階からの転落防止のため、夜間のみ仕切り扉を設けている。立ち上がり時に分かるように、見守りの意味合いで、足元センサーを付けている方がいる。玄関施錠はしていない。	3か月に1度の身体拘束委員会記録と、全職員の年2回の研修記録をファイル化して、すぐ取り出せるようにしておかれるようお奨めします。また、研修に参加できなかった職員への周知方法も明記されるよう期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	・OJTなどで研修を開き、その重要性を理解するように指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・まだ取り組み方は低い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・締結時には原則本人とご家族を同伴の上署名捺印をお願いしている。改定時には文書により説明、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・そのように対応しているが、反応は鈍い。	本人からは日常的に意向を聞き、食事内容等実現できることには応えている。重要事項説明書でも家族等に面会をお願いしているが、コロナ禍という事もあり、殆ど面会はなく、音信不通のご家族もある。アンケートや運営推進会議前の意向確認においても家族からのご意見や返信はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議等により機会を設けている	普段から意見は言いやすく、実現可能なことはすぐ実施してくれ、家庭の事情なども考慮してくれて働きやすいと、職員ヒアリングで聞き取った。利用者から聞いた食事の希望を伝えたり、介護支援専門員からは、ケアプラン作成業務専用の日を設けてほしい等の要望が出て、実現している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・長く職員が定着しているため、一定功を奏していると思われるが若干のマンネリ感はある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・現在法人外への研修は取り組みが低いが、OJTなどを実施しつつ取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・取り組みは低い。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・契約前に本人の包括的な情報収集をし、円滑に利用していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・担当者を決め、窓口を一本化することによりスムーズにやり取りできるようにしている。また、職員から個別にヒアリングを随時行い、情報収集に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・そのように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・残存能力や志向を事前に調査し、その能力に応じた家事等をしていただけるようにしている。現在全体的な介護度が上がり、協同の度合いは低下している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・働きかけてはいるが、家族によりばらつきが有り概ね反応は低い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・前に利用していた事業所に訪問することもあり、一定取り組みはできている。また、昔の職場友達が電話をしたり訪ねてきたりすることもある。	コロナ禍で来訪者はないが、友人からの電話を取り次いだり、電話機の番号を回して本人に渡し、会話をつなぐなどの支援をしている。多様な個々の趣味や趣向を尊重し、無理に集団行動を押し付けず、読書、DVD視聴、庭木の水遣り等、本人の好みに合った支援をしている。本人の希望により地域の理髪店に同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・そのように対応しているが、認知症度合いや住変状況にばらつきがあり、思うような成果は上がっていない。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約終了後もフォローアップを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・契約書にその旨明記し、実践している。	本人からは毎日のように意向を聞き取り、実現できることは実現している。理由の分からない怒りは、理由を推測し、ケース記録に記載して共有・検討している。甘いパンを嫌う方、コーヒーが飲みたい方等、様々な個々の要望に応じている。連絡の取りにくい家族が半数近くおられ、家族から本人の要望を聞き出すことのできない方もおられ、その場合は、現状から推測して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・そのように対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・そのように対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケース会議等を通じて実施している。随時新しい取り組みを介護支援専門員にすぐに提案出来る環境にある。	変則勤務で、職員が一堂に会することが少ないため、正職員3人がそろった時を選んでケアカンファレンスを開き、アセスメントをもとに、介護計画を立てている。6か月ごとにサービス担当者会議と介護計画の更新をおこない、家族等の同意を得ている。毎月のモニタリングで、介護計画を見直し、変化があれば6か月を待たず計画を変更している。	介護サービス計画書(1)②の具体的な計画には、介護職に特化したサービスの記載のみで、医師や看護師等の関与が不明瞭です。利用者が様々な職種の支援に支えられていることを介護計画で可視化されるよう期待します。

京都府 グループホーム あぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケース会議等を通じて実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ニーズの把握、実践に努めているが、認知症が重度の方が増加し、思うように把握できていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・運営推進会議等を通じて、地域資源の把握に努め、極近隣のパン屋さんに一緒に買い物に行ったり、喫茶に入ったりすることが増えつつある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・可能な限り在宅時のかかりつけ医にそのまま往診、通院等の依頼をしている。	入所前からのかかりつけ医(3機関)が月2回、訪問診療に来られ、その際職員が付き添い情報交換をしている。医師による、急変時等の24時間対応もある。訪問看護師が週2回来て、健康管理や医師との連絡調整をしている。必要な方は歯科往診や歯科衛生士の口腔衛生指導も受けている。連絡の取れない家族や協力の望めない家族があり、他科受診には職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護ステーションと契約を行い、協働での作業は増えつつある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・窓口を一本化することにより円滑な対応を行えるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・そのように対応している。地域の関係者との協議はまだ行っていない。	「重度化指針」は現在作成中である。事業所として看取りはしないが、できるだけ長く住んで頂けるような環境作りや配慮をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・まだ取り組み方は低い。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・現在運営推進会議で議論中であり、マニュアルを見直しつつある。	夜間想定での消防訓練を年2回実施し、初期消火→通報→避難誘導の手順で、時間を測り、煙を受けず屋外避難ができるように訓練している。水害は近くの小畑川が以前に氾濫した経験から、2階への垂直避難を考えている。事業所は耐震構造ではなく、地震時の課題が残る。備蓄は2日分の食料、水、簡易トイレ等を準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・そのように対応している。	虐待防止研修で利用者の尊厳や対応について周知を図り、日々の支援に活かしている。丁寧な声かけや気さくな声かけ等、利用者の個性に合わせて対応している。記録の保管や本人の名前の公表等にも気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・好みや嗜好に対し、随時意向を聞くようにしている。宅配食のシーンなどに反映させている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・声掛けはしてるが、本人の好みのリズムを重視している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・本人の好みに任せており、意思表示ができない人は、各衣類がローテーションで組み合わせるように工夫している。。		

京都府 グループホーム あぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・買い物や茶碗ふき、洗濯物畳みなど参加できる家事には参加していただいている。	利用者からの希望を聞き、献立を考えている。食材は近くのスーパーで職員が購入し、飲食業に長年勤務していた調理師の職員2名が本格的な料理を提供している。利用者は野菜を洗う、切る、皮むき、下膳などをしている。誕生会や行事用に、月1回、イタリアンや和食や中華等を業者から取り寄せ、祇園祭には鰻寿司を注文して季節感を味わっている。おやつは、今は手作りせず、やわらかめのシフォンケーキ等を購入している。朝食はおかゆが多いが、パンやごはんを好む方の希望にも応えている。飲み物も好みを聞き、用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量や水分量に留意が必要な人については把握、量の増減を試みている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・2回/日の口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・おむつは一切使わず、すべて声掛け、誘導で対応している。夜間は必要に応じてパット交換のみの場合もある。	長く勤務している職員が多く、1人ひとりの排泄パターンを把握しており、早目の声かけや誘導により失敗を減らすようにしている。排泄サインの分かりにくい方は排泄パターン表をボードに貼り、個別チェックをしている。おむつ使用者はなく、布パンツやリハビリパンツに大少のパットを適宜組み合わせ、それぞれに合わせた支援をしている。1階のトイレが広いので介護度が上がった利用者を1階の部屋に変更してもらうこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・繊維質の高い食事内容を考慮している。		



京都府 グループホーム あぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・連日はいる方もおり、数日空く方もいるが、おおむね3日に1回は入れるようにしている。	週2回、午前中の中入浴を基本に、利用者の希望や体調に合わせて回数や時間を加減している。個浴で、殆どの方に浴槽に浸かってもらうが、重度でシャワー浴の方もおられる。1回ずつ湯をかえ、湯温や湯量は本人の好みに応じている。同性介助、希望のシャンプー類の使用も可能である。菖蒲や柚子を農家からもらい、季節湯を楽しんでいる。入浴拒否の方は今はおられない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・睡眠サイクルの把握に努め、そのように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・内容につき担当者が把握するようにしている。投薬内容が変更された場合は全スタッフに通達できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・そのように対応している。一日のうち一定のレクリエーションや機能維持訓令等ができる時間を設けるなど工夫するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・大規模なレクリエーション外出より、細かなニーズに対応した外出支援を実施している。	以前は少人数で花見に出かけることや映画村等への外出もあったが、コロナ禍の影響や利用者自身の重度化により、外出をストレスと感じる方も増えてきている。協力医からの指示により、現在は殆ど外出しておらず、敷地内の庭に出て外気浴や植木の水遣り等をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人が金銭管理をしている利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・随時施設の電話を開放している。		

京都府 グループホーム あぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・そのように対応している。	山小屋風のリビングには暖炉があり、寒い時期には薪が燃える様子を楽しみながら暖をとっている。個々の場所の確保や衛生面への配慮から、ひじ掛け付きのリクライニングチェアを購入し、テレビや暖炉を囲むように配置し、各々がゆったり寛げるようにしている。隣家の子どもから譲り受けた猫と一緒に住み、癒しになっている。テレビ横や壁には季節の造花(生花は猫が食べるので置かない)や、皆で作製した月ごとのカレンダーや季節の飾りを飾っている。リビングからは、奥のキッチンや食堂からの調理の音や匂いを体感できる。2階への階段や廊下のスロープ、食堂へ段差等はバリアフリーではないが、利用者は自宅のように馴染んで過ごしている。加湿機能付き空気清浄機を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・利用書同士の好悪を把握し、そのように対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・そのように対応している。	居室は1階と2階に分かれ、和室、洋室があり、部屋の広さや造りはまちまちである。起床後1階のリビングに集まると、利用者は居室にはあまり戻らない。ベッドは個人で購入し、冷暖房は入居時に個々に設置するが、前の入居者から譲り受けたものを使用している方もある。家からテレビ、CDラジカセ、タンス、位牌、遺影、本等を持ち込み、自分らしい部屋作りをしている。週1回職員が掃除をしている。電気製品のリモコンは、適温維持のために職員が預かっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・そのように対応している。		